

うつけ通信 vol.13

以前、宮本先生に「呼吸する家」を建てておられる目的についてお話を伺う機会がありました。今回はそのことを探りあげさせていたただきたいと思います。

ゼロ企画：「呼吸する家」は、いつ来ても気持ちのいい空間ですね。このように呼吸大学へいるんな方が今まで見学に来られたとおもうのですが、「呼吸する家」を知ってしまったらもう他の家は建てられませんね。

宮本先生：いえ、そんなことはないですよ。知っていても建てない人がほとんどです。何回も見学に来て、何回も話を聞いて、それでも多くの人はプレハブ住宅やマンションを選びますよ。

ゼロ企画：ええっ？ それは何故なんですか。

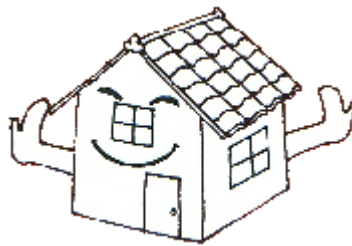
宮本先生：この家は人を選ぶからです。

ゼロ企画：人が家を選ぶのではなくて、家が人を選ぶのですか。

宮本先生：そうです。「呼吸する家」は生きています。だから選ぶんですよ、人を。そして、選ばれた人でなければ、この家を建てたくても建てられないんです。

ゼロ企画 将来是非「呼吸する家」を建ててもらいたいと思っているんですけど、選ばれる人になるためにはどうしたらいいでしょうか。

宮本先生：選ばれる人と、そうでない人の違いを一言で言えば人間性ですね。普段はわからなくても「呼吸する家」の前に来ると人間性の違いがはつきり浮き彫りになります。それは「自分のことしか考えていない人間」か、「自分よりも他のことを考える人間」かの違いが明らかになるといことです。



宮本先生：例えば「呼吸する家」が500年以上の耐久性を持っていると言つと、いろんな反応が返ってきます。その中には「それほど長く持つ必要はないのではないか」という人が必ず居ます。親が建てた家の子供が気に入るとは限らないから、子供は大きくなつたら自分で好きな家を建てたい。だから500年持つ必要がないというわけです。

一代しか持たない家ならば世代交代のときに建て替える迫られますが、500年持てばその時に建て替える自由も、建て替えない自由もあって、両方選択できます。子供が大きくなつたときに建て替えてもいいし、450年後に建て替えてもいい。500年耐久することで困ることはなにもないわけです。しか

し、このような人達は500年持つことに価値を見い出せないんですね。

ゼロ企画：僕なんかは、長持ちすればお得だと単純に思っています。(笑)

宮本先生：どこからどう考えてもお得でしょう。でもお得だと思えない人もいるというわけです。というか、実際はほとんどの人がお得だと思わないんです。僕も最初はわからなかったんですが、このよう人は自分の都合でしかものごとを考えていないというところに、あるとき気づかされたんです。住まいが500年持つというのは、地球の資源を無駄遣いしない、環境に負荷をかけない、未来の子孫に負債を残さない、子供たちを育む住環境が適正なものになるなど、数々の計り知れないメリットがあります。しかしこれらのメリットについてちょっと考えてみてください。これらのメリットは、自分のことより自分以外のことに意識を置く人にとってのみ喜ばれることばかりです。長く持たせるとか、大事に使つとか、もつたいたないとか、他に對する慈しみの心ですね。万物に対する思いやりの心のある人は、500年耐久することに価値をもちます。しかし、自分のことばかりを考える人にとつてこれらのことは全く魅力がないわけです。「500年先なんて自分は死んでしまつてこの世に居ない」などという、自分のことばかり考えている人にとつて、この家の価値は猫に小判なんです。この家はその人が利己主義者かそうでないか、人間性を判別するといつてもいいでしょう。家が人を選ぶとはそういうことです。

ゼロ企画：なるほど。裸になっているのを気づかな

いのは本人だけというわけですね。

宮本先生：現代は、冬あったかいですよ、便利ですよ、楽ですよ、バリアフリーですよ、なんてその人にとって都合がいいことを言うって売れるわけです。しかし、子供のゼンソクヤアトピーが治る、未代まで家を残せる、地球がよるこぶ、なんて言ったらって誰もその家を建てないです。「呼吸する家」は穴だらけですから、それを見た人は自分にとって「寒いかも……」と思い込んだ瞬間に、子供も子孫も地球も犠牲にするほうを選択するわけです。いままでアトピーの子供をつれた親御さんが呼吸大学を見学に来られたことは数知れませんが、それで「呼吸する家」を建てたのは一例もありませんから。

ゼロ企画：なんだか寒気にする恐ろしい話ですね。家が寒いのではなくて人間が寒い……。

宮本先生：そんな人間の本性なんてのを見たいとおもってないし、僕の趣味ではないのですが、「呼吸する家」の前に立つと人間性が見透かされるんですね。

ゼロ企画：木村先生は「利他の精神」、真弓先生は「覚他の精神」をおっしゃいます。

宮本先生：この二人の先生のおっしゃることは人としての温かみのものであり、またこの精神こそ人間の特権なんですね。狭い自分の枠に凝り固まっていたりはほんとうの幸せを得ることはできないわけです。それから、「利他」や「覚他」の「他」とは、他人という人間のことでなくて、地球とか万物とか自分

以外のあらゆるすべてに置くことが大事なわけです。それでこそ人間に生まれてきた価値があるわけです。

ゼロ企画：人類が利他の精神に目覚めて、「呼吸する家」の価値が理解される世の中がくるといいですね。

宮本先生：「三つの村」ができればそのことは可能になりますが、それ以外ではちょっと難しい話ですね。三つ子の魂百までですから、現代人に染み付いた心の垢はなかなか抜けるものではありません。だから僕は今の世代の人達を相手にしていかないというところがあります。

僕自身は「呼吸する家」を建築することで一銭のお金ももらっていないわけです。そこまでして何をしようとしているのかくらいは考えてもらいたいという気持ちはありますね。つまり目的のことです。ところで、その目的について書いた走り書きがあります。読んでみますか？

ゼロ企画：ええ是非！もしよければ、それを掲載させてください。

ということで、宮本先生の書かれた文章を掲載させていただきます。掲載しきれない分は来月号に続きます。つづきもお楽しみに！

愚申蔵「ちがった財産を発見してほしい」

家の中を住環境とも言う。生命にとって環境とは生きていくための条件のことである。地球環境も住環境も、それは条件に他ならない。つまり家はちょうど地球を縮小したようなものだ。であるから地球の運行に反するものが多ければ多い程、その住まいは

住めなくなる。住まいの中には、ペットや家族等の生物と、畳や柱等の無生物が存在する。住まいの中にあるものは、生物も無生物も住環境という同じ条件下に置かれるのである。正しい環境の中では生物も無生物もすべてが生き生きとし長持ちする。間違った環境の中ではすべてが腐り始め消滅する。だから家の耐久年数と、その家の中に存在する万物は、相関関係にある事が理解出来る。この現象を、「住まいの耐久年数とその住空間に存在する万物の優劣は、正比例する法則」と言う。

何がどのように正比例するかと言えば、例えば住環境が悪いと無生物であれば、カビが発生しダニが湧き白蟻が繁殖する。だから家の中はカビ臭いし、腐るから柔らかくなり家の強度が消失する。この事を耐震性が悪いとか、耐久性が無いと言い、短命な家とも表現する。一方の生物であるベット等は、このカビ臭い中に生きているのであって、この腐る条件の影響下にあると言える。無生物は、プヨプヨに成ったり、空洞化の現象が発生するが、生物に於いては、精神が腐乱したすのである。この異常や不調が、不眠とか、或いは考え方や物の見方が卑しくなるといふ具体的現象に現れる。そしてその異常等が更に悪化した状態を病気と呼んでいる。

整理すると、住まいの悪環境による影響は、無生物に対しては腐朽であり、生物に対しては精神を歪めるのである。これを私は「住まいの耐久性は、その中の万物の正邪に比例する法則」と公言した。

地球の縮図にした住まいは、500年耐久すると公言した。すると、「それでは商売に成らん」とか、「理想だ」とか「空論だ」呼ばわりもされた。

(次号へ続く)

ゼロ企画関西支部(0724)67・0644 辻